

GEKKAN ORIMOTO

## 月刊 織本

1月号

2011年1月1日 Vol.197

発行 医療法人財団 織本病院

印刷 〒204-0002 東京都清瀬市旭が丘 1-261

Tel 042-491-2121 URL <http://www.orimoto.or.jp/>

発行人 高木 由利



## 世界にたった1つのレストラン

理事長・院長 高木 由利



あけましておめでとうございます。

私の家は草花には最悪な環境らしく、室内に置くと花は咲かず虚しい姿に変身してしまいます。ところが9月に買ったジャスミンが再び蕾を付けました。私の帰宅が遅いのでヒーターを入れることが少なく、窓から降り注ぐ陽の光がジャスミンのお目覚めを助けたのかもしれない。

\* \* \*

12月2日、腎不全食のレストラン“リストランテ・ユリ”が1年振りにオープンしました。今年はフランス料理でした。この日のお料理のデザインは1人分でエネルギー 635kcal、たんぱく質 10.9g、食塩 1.6gで、たんぱく質 10.9gの中の動物性たんぱくの占める割合(動タン比)は80%でした。

私は、この仕切り皿の中におさめるメニューを考えるのに10ヶ月もかかってしまいました。見た目に美しく、食べて美味しく、そして治療食として限りなく完璧であること。更にコストが安く、作り方が簡単であり、これが世の中の医師達にまずいと言われている腎不全食とは到底

想像ができないというメニュー

作りなのです。毎日私が家庭でハッと思いついて作る食事とはレベルが違います。このメニューを作るためにあらゆる地域のフレンチレストランに出向き、シェフと語り、様々な条件をクリアするのにこんな長い時間が必要だったのです。

当日はドクター7名を含め、私の腎不全外来通院中の患者さんや腎不全の普及に協力したり興味をもっている様々な業界の方45名がご来店



下さいました。

“人は口から入る食物によって生かされている。だからこそ私達は自分の体に最も合った食事のデザインを考えるべきである。”が私の信念なのです。

今、日本腎臓学会では食事療法は治療効果の乏しい無意味なものであるという考え方を打ち出しています。私は納得がいきません。全ての治療を成功させるための基礎は食事だと考えているからです。皆様はどう思われますか？食事を蔑ろにして薬漬けになることが人間の体を治す基本なのでしょうか。

世界にたった1つのレストラン、1年に1度しかオープンしないレス

トラン“リストラテ・ユリ”は腎不全食の普及を目指す伝道者の集いなのかもしれません。



## ブランドと仕事 ②

事務部長 箕輪 比呂志



新年あけましておめでとうございます。皆様それぞれの思いで新年をお迎えのことと思います。

昨年4月頃から病院の玄関回りに花を咲かせて華やかにしたいと心に描いていました。ある11月の小春日和を選び、病院の施設用度課、経理課の職員と共に私の趣味の1つであるガーデニングに取り組みました。病院の玄関入口やカフェテラスのウッドデッキに季節の花々の寄せ植えを作り、正面玄関の屋根の支柱にはフラワーハンギングバスケットを取り付けまし



た。ニワトリの姿をした鉄製のフラワーバスケットは理事長が用意しました。このことがきっかけで患者様からのお声かけを頂く機会が増えてきたことを、一同大変嬉しく思っています。今年は、季節の移り変わりに合わ

せて正面玄関回りに様々な花を咲かせたいと思います。

さて、昨年11月号に「ブランド（商標、銘柄）と仕事」というテーマで仕事に対する考え方、そして織本病院の従業員として病院の理念を忠実に病院業務に再現することが大切であると述べました。また、他社と比べた自社の特徴、すなわち「その企業らしさ」をコーポレートブランドと表現し、その存在感をアピールすることの重要性についても書きました。当院は、2012年、創立60周年を迎えるのですがまだまだ組織としては未成熟な状態にあり、織本病院ブランドを常に進化させなければなりません。病院を維持し発展させていくために、地域の住民の方々や患者様のニーズに答え業務改革を行い、医療という行為を立ち止まることなく追求し続けなければならないのです。その主役は職員ひとりひとりです。たった1人の職員が病院の理念から外れた行為をした結果、外部からは全体像として捉えられてしまいます。昨年2回開催した院内接遇勉強会でも触れましたが、例えば「失礼な対応を受けた飲食店、ホテル等には二度と行かない」

と思うことが皆様方にはありませんか。また、店員が良くても店長の言葉に傷つくこともあります。1人の言動が組織全体に、マイナス材料として重くのしかかるのです。そして完全に見捨てられると顧客が黙って去っていくということになります。ところがその組織に何らかの利点や良さ、魅力がある場合は、顧客からのクレームという形になるようです。何故なら、指摘をして頂ける理由は、愛情を込めて、もっと改善してもらいたいとの期待が含まれているからです。私達医療従事者は、当院に来院されている患者様から「当院は、どのように捉えられているのだろうか」と立ち止まって考えることが大切です。そして謙虚になることです。私自身、現在でも落ち度が多々あるかとは思いますが、40歳代になる前は社会人の言動として配慮が足りないことを諸先輩方から指導を受けた経験が何度もあります。そして、自分自身では気付かずに人を傷つけたこともあったと思うのです。

もう1つ大切なことがあります。病院は、ごく少数の医師と多くの医療従事者で構成されています。医

師以外のスタッフ自ら直接の診断や治療をすることはできませんが医師達を支援することはできます。医師は病院のいわゆる顔ですので、世間でよく言われる腕のいい医師がいると病院のブランド力（その病院らしさ）は自然にアップしていきます。医師は日々の診療はもとより、医学書、学会・研究会参加などを通じて医療について絶えず勉強をしています。一方、支援するスタッフ達は自ら学んでいるのでしょうか。私の問いかけは、医療従事者として、それぞれの持ち場で常に学習することが大切ではないかということです。医師が診療の場でその持てる力を100%発揮する為に、スタッフも学習することが「織本病院らしさ」を創り出すためには、不可欠だと考えています。もちろん、自ら学びを継続しているスタッフもいますので素直な気持ちで参考にしてほしいと思います。

私は、10年前に開腹手術を経験しています。その時のエピソードも交えて次回も「ブランド（銘柄、商標）と仕事」について引き続き皆さんと考えていきたいと思います。

昨年11月3日、旭が丘団地で開催された秋のフェスティバルで初めてお会いした岡田様。当院のスタッフ達に血圧を測定されたり、Xスキャンに乗せられたりして一気に当院の有名人になりました。

## 死について考える

岡田 和久 様



人間には、運命といったことがある。運命とは、その人その人個々に持っているものではないだろうか。人生の誕生も運命ではないだろうか。十月十日母体に宿し、その子の両親、祖父母、兄弟、そして周囲の期待を背負って誕生した命、それも運命ではないか。新しい命が誕生した時には、男の子であれ女の子であれ万歳と叫んだことであろう。

「死」といった事柄も運命が付きまとう。長生きする人、短命な人、それぞれが運命であろう。その人が持っている運命で、その人の人生が決まるのではないだろうか。

ある日、近所のお婆さんが私の前を歩いていた。そ

のとき後ろから大型自動車が来た。その車と前から来た車がすれ違ったが、大型の車が少し左に寄ったので前を歩いていたお婆さんに接触し、お婆さんは頭の半分を持っていかれ亡くなった。私がお婆さんが歩いていた位置にいたら私がこの世から居なかったことだろう。これも運命である。

改めて「死」を考えてみよう。人間には死は避けては通れない出来事である。死は楽しいものではないが、人生の終着点でもあり、楽しかった人生であったと思いたい。その人の物語もあるだろうが、大方は悲しいものである。事故で突然に死を迎えることもある。本人の意思に反し死を迎えることだってある。楽しい、

嬉しい死があってもいいのではないだろうか。病気になり、苦しみ、痛みを我慢し耐えて亡くなるのではなく、我が人生楽しかったと言って亡くなりたい。死に対し恐怖があるのだろうか。無いとは言えないであろう。あの世とやらには興味もある。行って帰ってきたことがある人には出会ったことがないので、あの世のことは無知であり、どのような所か知りたい。知り得たあの世での生活設計を立て楽しく過ごしたい。

では、わが身はどうだろう。医師の診察を拒否し、薬を服用することを断り、自然に生きていく決心をしてきた。年に1度は風邪をひくが、薬局で風邪薬を求め3日で治す自信あり、医者嫌い、薬嫌いになっている。しかし先日、自治会主催のフェスティバルに織本病院のブースがありスタッフから血圧測定を勧められた。いつもなら見るだけで参加などはしないのだ

が、近年血圧が高く、ま〜お野次馬的に測定した結果高血圧で、それも非常に危険状態と女性スタッフに注意を受け、2日間悩んだ末、織本病院を受診した。これも運命と思い、ホームページを見ていると色々なイベントがありその中で、あるセミナーのテーマに感心を持った。永遠のテーマである「死」だ。痛くなく、苦しくなく死を迎えたい。それには何があるかを考えたならば、「安楽死」もあるではないか。しかし医師はそれを受け付けてくれるだろうか。法的にも無理があるだろう。余命少なくなっても苦しみ、痛みに耐えるのではなく、安楽死を選択できるのなら、私は1番に安楽死を希望し申し出るであろう。死に対して恐怖を感じることをなくしたい。治療に関しては、必要以上の治療をせず、延命治療も望まない。

我が人生、楽しみ謳歌したのだと人生を終えたい。

## インフルエンザワクチン予防接種のご案内



15歳以上の方を対象にインフルエンザ予防接種を受け付けております。

現在病院にかかられている患者様は必ず主治医とご相談の上、お申し込みください。

- 受付時間 月曜日～土曜日（第1、2土曜日の午後は除く）  
午前 8:30～11:30  
午後 13:30～16:30
- 接種費用 1回 3,150円（税込）
- 対象年齢 15歳（高校生）以上
- お問合せ TEL 042-491-2121（9:00～17:00）

**随時受付**

## 自称 不良牧師 アーサー・ホーランド氏、織本病院来たる

— 第118回 腎疾患ゼミナール新春特別講演会 —

### 『魅力ある人生を...』

伝道師 アーサー・ホーランド氏が語る、  
あなたへのメッセージ

2011年1月27日(木)  
13:00～14:00  
オリエントホール(4F)  
入場無料

どなたでもご参加頂けます。皆様ぜひお越しください。

Arthur Hollands

